

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ひろしまけんりつひろしまちゅうがっこう・ひろしまこうとうがっこう			②所在都道府県	広島県
27～31	①学校名	広島県立広島中学校・広島高等学校				
③対象 学科名	④対象とする生徒数				⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	計	生徒数	721人
普通科	240人	80人	80人	400人	1年生	241人
					2年生	239人
					3年生	241人
⑥研究開発 構想名	持続可能な社会の構築に貢献できるグローバル・リーダーの育成					
⑦研究開発 の概要	グローバル・リーダーに必要なコンピテンシーについて教員・生徒が共通認識を持ち、課題研究における系統的な探究学習やフィールドワーク等を通して「高い志」を涵養するとともに「汎用的能力」を育成する。また、各教科においてパフォーマンス課題を中心に据えた授業改善により「深い知識・技能」「英語力」を育成する。					
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>持続可能な社会の構築に貢献したいという「高い志」を持ち、その実現のために、故郷「広島」に対する深い理解・愛着を持ちながら、国内外の異なる文化的背景を持つ人々と協働して、新たな価値を創造できるグローバル・リーダーを育成するために、カリキュラム・指導法・評価法の開発、及び環境整備を行う。</p> <p>(目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 生徒のコンピテンシーの向上 ➤ 学校の組織的な指導体制の確立及び成果普及 <ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーの育成を意識したシラバス及び教材開発 ・学習者の主体的な学びを促す指導法の確立 ・教材や評価法をまとめた「指導の手引」を全県立高校で共有化 <p>(本校が考えるグローバル・リーダーに必要なコンピテンシー)</p> <p>高い志，汎用的能力（批判的思考力，協働力，創造力），深い知識・技能，英語力</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>(現状分析・課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「高い志」と「英語力」が十分に育成されていない。 ➤ 「批判的思考力・協働力・創造力」等の汎用的能力を駆使して，知識と実社会を結び付けながら探究する機会（プロジェクト学習等）が不十分である。 <p>(研究開発の仮説)</p> <p>以下のような取組を推進することにより，グローバル・リーダーに必要なコンピテンシーを兼ね備えた人材を育成することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ グローバル・リーダーに必要なコンピテンシーについて教員・生徒が共通の認識を持った上で，その育成に向けて，総合的な学習の時間における「課題研究」と各教科での「パフォーマンス課題」を有機的に関連させた取組を行う。 ➤ その際，生徒が自己の行動を振り返り，それを概念化することを習慣化させることにより，生徒の「汎用的能力等」が育成される。また，各教科においてパフォーマンス課題を中心に据えた授業改善により「深い知識・技能」が育成される。 ➤ 課題研究において，「持続可能な社会の構築」をテーマに，多様な他者とのディスカッション，諸外国（フィリピン，オーストラリア，ハワイ等）や広島県内におけるフィールドワーク，プロジェクト学習等により，知識と実社会を結び付けながら探究し，3年時に英語で論文にまとめる。 <p>(3) 成果の普及</p>				

- 教職員や保護者等を対象とした教育研究発表会の開催
- ホームページへの取組状況の掲載
- 「探究コア」指定校（探究型学習のカリキュラム等の研究開発を行う高等学校）への普及
- 大会・コンテストへの積極的な応募

(1) 課題研究内容

テーマ 「持続可能な社会の構築」 に貢献できる 「グローバル・リーダー」
 (理由) 世界で最初の被爆地である、ここ広島は、世界に存在する様々なリスクに向き合い、乗り越えていく力を兼ね備えたグローバル・リーダーを育成していく使命を有している。本校の生徒が将来、いかなる分野に進もうとも、その根底には「持続可能な社会の構築」に貢献したいという「高い志」を持っていてもらいたい。そのような思いからテーマを設定した。

(2) 実施方法・検証評価

実施項目	対象生徒	概要
H27 年度開発(H27 年度実施)		
グローバル・リーダー研究	1学年全員	自己の目標に対する課題とグローバルな問題に対する課題を設定
持続可能な社会研究	1学年全員	探究学習を通して、自らが設定した課題について認識を深める
夏季集中講座	1学年希望者	外国人留学生を交えて2日間の協働体験学習を実施
海外研修 in フィリピン	1学年・5名	現地の高校生とのディスカッションや現地でのフィールドワーク
海外研修 in オーストラリア	1学年・25名	現地の高校生とのディスカッションや現地でのフィールドワーク
パフォーマンス課題(国語)	—	持続可能な社会の構築に関わるパフォーマンス課題の設定と評価を通し学習者の主体的な学びを促す指導法の確立
H27 年度開発(H28 年度実施)		
SGH課題研究①	2学年・80名	プロジェクト学習を通して、課題設定・解決に至るプロセスを実体験
グローバル・エクспレッション I	2学年・80名	英語での要約や簡単な論文の作成、プレゼンテーション等の実施
海外研修 in ハワイ	2学年・20名	現地の高校生とのディスカッションや現地でのフィールドワーク
パフォーマンス課題(国語・数学・外国語)	—	持続可能な社会の構築に関わるパフォーマンス課題の設定と評価を通し学習者の主体的な学びを促す指導法の確立

(検証評価)

- ・ 生徒及び教員を対象としたアンケート調査（各取組実施後）
- ・ 運営指導委員会からの全体評価（年2回）

(3) 必要となる教育課程の特例等

学校設定科目「SGH課題研究①」の1単位分で、「社会と情報」1単位を代替する。

⑧
-2
課題研究

(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価

特になし

(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等

必要としない

(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法

Web 会議システムの活用、グローバル・コース設置に伴う教室の増設

実施項目	対 象	概 要
グローバル体験	ハワイ	現地の高校に短期留学し、異文化体験を通して、グローバル・マインドを涵養
海外研修	台湾	
地域創生イノベーションスクール 2030への参加	教員 生徒	プロジェクト学習を行うためのノウハウ取得 グローバル・リーダーに必要なコンピテンシーの育成
1000校プロジェクトへの参加	教員	世界10か国から計 1000 校の教員と協働し、コンピテンシー育成に資する指導法や評価法について研究

⑧
-3
上記以外

**⑨その他
特記事項**

本校は、平成 16 年の開校以来、中学校において文部科学省の教育課程特例校の指定を受け「ことば科」を開設し、高等学校の「卒業研究」まで中高の 6 年間で「論理的な思考力・表現力」を育成することを目指した教育を実践してきた。

ふりがな	ひろしまけんりつひろしまちゅうがっこう・ひろしまこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	広島県立広島中学校・広島高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	200人
	SGH対象生徒以外:		-	92人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: SGH事業の取組をととして、持続可能な社会の構築に貢献したいという「高い志」を涵養することによって、主体的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の数が増加する。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:		34人	38人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: ハワイ姉妹校への留学をはじめ、本校や広島県教育委員会等の主催する留学プログラムや海外研修に参加する生徒が増加する。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		40%	51%	%	%	%	70%
目標設定の考え方: SGH事業の取組をととして、上記のように考える生徒が増加する。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:		21人	25人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: ユニタール青少年大使、模擬国連、高校生英語ディベート大会、グローバル課題に関するシンポジウム等での課題研究発表等、様々な大会やコンテストへ積極的に応募することによって、上記の目標が達成される。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		19%	27%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: 英語話者とのワークショップやディスカッション、さらには海外でのフィールドワークなど、英語を実際に活用する機会を増やすとともに、海外フィールドワークの参加要件として外部検定試験(TOEFLや英検等)の資格取得を課し、放課後等の時間を利用して、外部検定試験対策講座を開設することにより、上記の目標が達成される。								
(その他本構想における取組の達成目標) グローバル化に対応した教育を全県的に推進するため、本校での研究開発のノウハウや研究データを全県立高校で共有化								
f	県立高校:		%	%	%	%	%	100%
目標設定の考え方: 教材・指導法・評価法をまとめた「指導の手引」を全県立高校に配布するとともに、教育研究発表会での発表や、本校HPを活用して成果普及を図る。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	45%	44%	%	%	%	%	%	60%
目標設定の考え方:LHRでの進路指導や個人面接などで、国際化に重点を置く大学のオープンスクールへの参加を促すとともに、当該大学の教育内容についての情報提供等を行うことをとおして、上記の目標が達成される。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	5人
	0人	1人	人	人	人	人	人	2人
目標設定の考え方:SGH事業における海外研修、海外留学に関するセミナーへの参加や大学教授による講義等を通じて、海外大学への進学に興味・関心を持つ生徒を増やすことにより、上記の目標が達成される。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	-	-	%	%	%	%	%	70%
目標設定の考え方:SGH事業の取組をとおして、グローバルな社会問題やビジネス課題と自らの在り方生き方を関連付けて考えることができるようにし、大学の学部学科選択に繋げて考えることができる生徒を増加させる。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	120人
	-	-	人	人	人	人	人	65人
目標設定の考え方:SGH事業の取組をとおして、グローバル・リーダーとして世界の諸課題に主体的に取り組む素養を育成することにより、上記の目標が達成される。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	0人	25人	人	人	人	人	人	50人
	目標設定の考え方: 海外の教育機関等における課題研究に関する海外研修に、毎年SGH対象生徒の多くが参加する。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	720人	720人	人	人	人	人	人	720人
	目標設定の考え方: 課題研究に関して、ひろしま国際センターや広島大学、地元企業等から招聘した講師による授業等を受けたり、JICA 中国に滞在する海外研修生との交流等にSGH対象以外の生徒も含めて全員が参加したりすることにより、上記の目標が達成される。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	0校	2校	校	校	校	校	校	5校
	目標設定の考え方: 課題研究に関する海外研修において、スタンフォード大学、ハワイ大学、フィリピンサイエンスハイスクール等との交流や連携を強化する。また、本校のSGHの取組を広く公開することで、課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数を増やす。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	50人	102人	人	人	人	人	人	200人
	目標設定の考え方: 課題研究に関して研究内容をより専門的に深化させることができるように、広島大学等の教授や学生・留学生等から指導・助言を得る。また、海外研修先の高校教師や大学教授及び学生から助言を得る機会を増やすことにより、上記の目標が達成される。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	11人	28人	人	人	人	人	人	60人
	目標設定の考え方: 課題研究に関して、地元企業やひろしま国際センター等の国際機関等の外部人材による講演会を行ったり、来日している海外研修生との交流の機会を増やすことにより、上記の目標が達成される。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	1人	0人	人	人	人	人	人	40人
	目標設定の考え方: ひろしま国際センター等のグローバル課題に関するシンポジウムや、広島県内の企業や海外研修時に現地の大学が開催するセミナー等にSGH対象生徒の多くが参加する。また、前述のシンポジウムや、国内外の学会等において、高校生部門で研究内容を発表する生徒数を増やすことにより、上記の目標が達成される。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	1人	1人	人	人	人	人	人	4人
	目標設定の考え方: 帰国生徒の受け入れを積極的に行うとともに、公益財団法人AFS日本協会やYFU日本国際交流財団等の留学団体、また地元企業関連からの外国人留学生の受け入れ数を増やすことにより、上記の目標が達成される。							
h	先進校としての研究発表回数							
	-	1回	回	回	回	回	回	3回
	目標設定の考え方: SGH事業の取組内容について、県内外の学校に対し、成果報告会を開催するとともに、研究の成果と課題の報告を兼ねて公開研究授業を実施する。また、グローバル教育推進のため、本研究内容について発表し、その運用ノウハウの普及活動を行う。							
i	外国語によるホームページの整備状況							
	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	△	△						○
	目標設定の考え方: 海外との連携機関や日本にいる外国人に本校のSGHの研究内容をはじめとする教育内容を発信し、海外との交流をさらに広げることができるよう、外国語によるHPを整備する。							
j	外国人との交流延べ回数(人数×回数)							
	11回	21回	回	回	回	回	回	40回
	目標設定の考え方: 課題研究以外の学校行事や授業等において、広島大学大学院や県内外の交換留学生及び海外からの訪問者等との交流回数を増やし、英語を使ってコミュニケーションしながら、世界の実態を学ぶ機会を増やすことにより、上記の目標が達成される。							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	720	720	720	720	720	720	720
SGH対象生徒数			240	320	400	400	400
SGH対象外生徒数			480	400	320	320	320